

富山縣ニ於ケル日本黄痘出血性「スピロヘータ」病 ノ見聞一片

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/38018 |

蟲卵ヨリ孵化セル「ミラシヂュム」ヲ用キテ河貝子體內ニ於ケル發育變化ヲ證明セザルモ一前記「チェルカリア」ハ肺「ヂストマ」ノ「チェルカリア」ニシテ、黑河貝子 *Melania libertina* Gould 及ビ疣河貝子 *Melania obliquegranulosa* Smith (之)ト同屬ノ者ニ於テモ、之ヲ肺「ヂストマ」第一中間宿主ナリト決定シテ可ナリト信ズ

附記

九月二十五日前記試驗箱ヨリ澤蟹三十五疋ノ送付ヲ受ケ検査シタルニ其内三疋ニ於テ幼若被包囊幼蟲ヲ見出シ多少ノ成績ヲ學ブ得タルモ予ガ豫想セシヨリハ此試驗ノ困難ナルモノナルコトヲ知レリ

追記

又肺「ヂストマ」ノ第二中間宿主ナル蟹類ノ學名ニ就テハ尙ホ調査中ニ屬スルコトハ曾テ之ヲ記載セシガ、今回東京動物學會ニ於テ寺尾理學士ノ査定セラレタル所ニ據レバ左ノ如シ

第一種 *Potamon* (*Geohelphusa*) *obtusipes*.

Stimpson 余ガ始メテ蕃地ニ於テ發見セル種類

ニシテ赤蟹「シヤハイ」*[Helphusa sp.]* 又ハ「*Helphusa rubra*」ト記載セル者ナリ

第二種 *Potamon* (*Geohelphusa*) *dehaanii*.

White. 是ハ澤蟹ト記セル者ニシテ、嘗テ *De Haan* ガ誤テ *[Helphusa Bernardi]*. *And.* ト査定セシ者ナレドモ、這ハ本種ト異ナルヲ以テ、後人 *De Haan* ノ名ヲ取テ種名トナセル者ナリ

第三種 *Eriocheris japonicus*. *De Haan* 毛蟹

Eriocheris sp. 又ハ *Eriocheris formosa* ト記セル者

ニシテ内地ニ産スル者ニ等シト。(大正四年九月稿)

富山縣ニ於ケル日本黃疸出血性

「スピロヘータ」病ノ見聞一片

醫科四年 澤 井 孝 昌

余ハ我郷里ニ於テ流行セル所謂日本黃疸出血性「スピロヘータ」病患者ヲ實見センガ爲メ去ル十一月一日親友牧、矢野ノ両君ト共ニ流行村タル射水郡作道村大字久々湊村ニ行キ同日出張セラレタル田村先生及上野氏ニ從ヒ谷道醫師ノ主治患者八名ニ就キ臨床上ノ所見ヲ觀察シ且ツ同日參集セラレタル地方醫師數名及役場吏員等ヨリ直接間接ニ聞キ及ビタル數々及十二月一日再ビ同地方ニ聞キ合

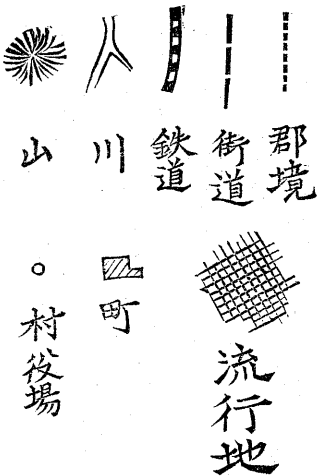
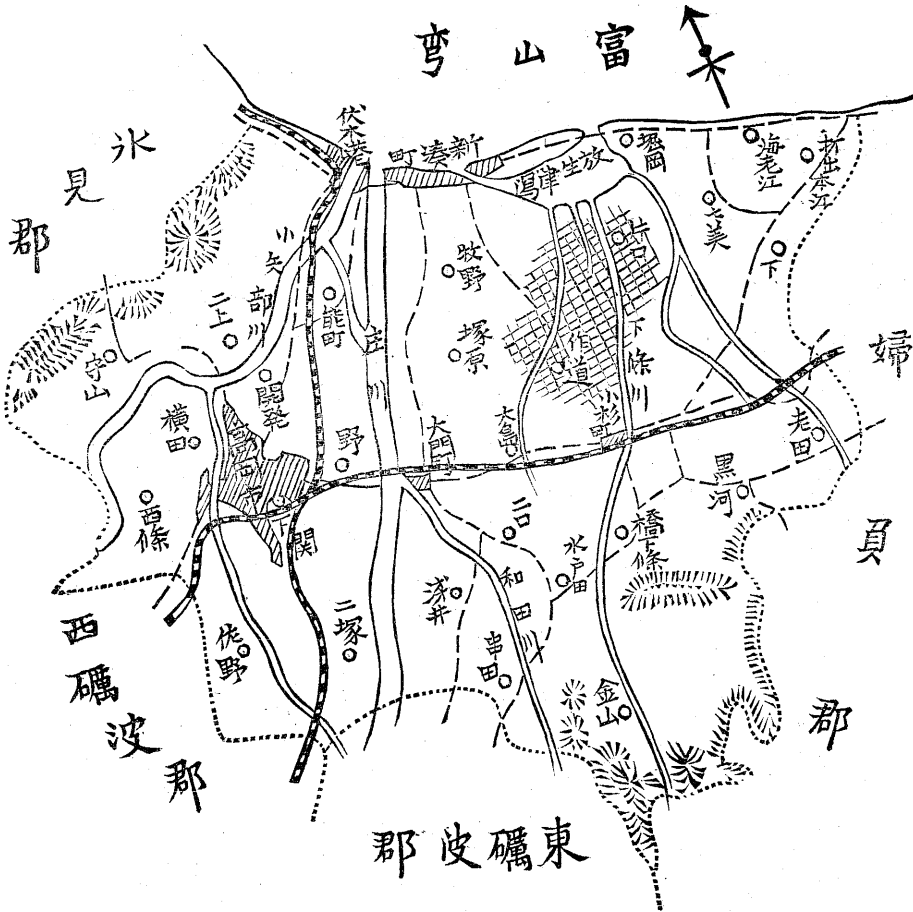
シ得タル諸事項ヲ是ニ概括シ本誌上ニ紹介スルノ機ヲ得タルニ際シ同日多大ノ便宜ヲ與ヘ給ヒシ諸彦ニ對シ萬腔ノ感謝ノ意ヲ表ス

抑モワイル氏ガ一八八六年初メテ熱發、黃疸、出血、筋痛等ヲ以テ主徵トセル疾病ヲ詳述シ命名シテ已レガ名ヲ冠セリ然レドモソノ病原及傳染經路等ニ關シテハ久シク不明ノ中ニ經過シタルガ稻田博士等ガ九州ニ流行セル所謂ワイル氏病ニツキ研究セラレシ結果本年ソノ病原ガ一新種ノ「スピロヘータ」ナルコトヲ發見シコレニ日本黃疸出血性「スピロヘータ」*Spirochaeta icterohaemorrhagiae japonica* ナル名稱ヲ附シ本病ヲ日本黃疸出血性「スピロヘータ」病 *Spirochaetosis icterohaemorrhagiae japonica* ト呼ブノ至當ナルヲ提言シコレニ關スル大ナル業績ヲ發表スルニ至レリ爾來本邦各地ニ於ケル本病流行ニツキソノ病原的検査ノ結果悉ク本病「スピロヘータ」ニ起因スルコトヲ發見シ九州及土佐ニ於ケル黃疸疫千葉ニ於ケル所謂ワイル氏モ皆同一ナルコトヲ確定スルニ至レリ而シテ我富山縣ニ於テハ本年八月下旬ヨリ本病ノ流行ヲ見タルガ九月下旬ヨリ十月中旬ニ至リ著シク罹患者ノ數

ヲ激増シタルタメ地方村民ノ恐怖ヲ招キ縣下醫界ノ注目ヲ惹クニ至レルナリ

本病流行ノ沿革及現況概畧 本病ハ本年始メテ世人ノ注目ヲ惹キタルモノノ流行ハ約五年前ヨリナラント推察シ得タリ即チ五年前晚秋作道村大字久々湊村ノ某賣藥ヲ業トシテ四國土佐(同地方ニテハ黃疸疫ト稱ス)ニ行商シ歸郷シタル後二日目ニ忽然惡寒、戰慄、熱發ヲ以テ發病シ著明ノ黃疸ヲ現出シ五日ニシテ鬼籍ニ上レリ當時ノ死亡屆ニハ單ニ黃疸病ト記サレタリソノ後每年少數ノ本症類似患者ヲ見タルモ主治醫ハソノ診斷ニ苦ミ或ハ黃疸トシ或ハ黃疸病トシ或ハ出血性紫斑病トシテ經過セシガ昨年秋期ソノ罹患者數稍々増加シ同村及隣村片口ニ跨リ二十數名ヲ算スルニ及ビ某治療醫ハコレヲ以テワイル氏病ナリトセリ然レドモ醫師間ノ注目ヲ惹クニ至ラズシテ經過セリ然ルニ本年八月以來忽然罹患者ノ數ヲ激増シ久々湊村最モ猖獗ヲ極メ之レヨリ南隣タル野村、作道、殿村、東津幡江、西津幡江及沖ノ七ケ大字ニ及ビ東隣ニテハ片口村ニ於テ高場、久々江、堀上新ノ三ケ大字ニ及ベリ他ノ隣接セル町村ニ於テモ二三ノ患者ヲ散見セリト云フ今

射水郡略圖



兩村ニ於ケル今日マデノ患者及死亡者ノ大畧ヲ記センニ次ノ如シ

村名 羅患者 死亡者 死亡率

作道村 一七五^人 二一^人 一二・〇%

片口村 六二 九 一四・五%

流行村ノ地勢概畧 本病流行村ハ射水郡作道村及片口村ニ跨ル一部域ニシテ別畧圖ニ於テ示セルガ如ク射水郡ノ東北部海岸ニ近キ低地ニシテ水田ハ泥濘深ク膝ヲ沒スルバカリ然モンノ灌漑河水ハ下條川ヲ最大トシテ大小數條流通スルモ常ニ清淨ナラズ四季殆ンド流ル、コナキガ如キ小川幾條トナクコレニ交通ス從ツテ僅カノ降雨ニヨリテ容易ク田間ノ村路ハ濁水ヲ以テ塞溢シ歩行ニ困難ヲ來スニ至ル、爲メニ苧稻肥料(主ニ糞尿)等ハ小形ノ田尻船ヲ用水ニ浮ベテ之レヲ運搬スサレバ勿論飲料水ニ於テモ良ナラズ器物等ヲ洗フニ此ノ川水ヲ以テスルモノ少カラズト云フ稻田博士等ガ稱スル如ク本病流行ガ水及土地ト密接ノ關係アルヤ明カナリ

本病罹患ノ原因的關係概要 本病ノ流行ハ毎年收穫期特ニ十月ニ多キガ如クシテ本病流行地ハ主ニ農ヲ業トス

ルガ故ニ患者ノスベテガ農民ニシテ而モ悉ク流行村ノ水田ニ於テ勞作セルノ既往症ヲ有ス從ツテ壯年者(特ニ二〇―四〇歳)ニ多シ極端ナル例トシテハ未ダ嘗テ水田ニ入りタルコトナキ某小學校訓導ガ休日ヲ利シテ苧入レヲ手傳ヒシ後十日目ニ發病シタルアリ。尙患者ノ多クハ男子ニシテ女子ハ五―七分ノ一位ナリコレ男子ハ勞働ニ際シ外傷ヲウケ易ク病毒浸入ニ曝露セラル、ノ機會多キノミナラズ過勞、不攝生等ノ誘因タルコト多キガ爲メナラント云フ尙小兒特ニ一〇歳以下ノモノニ於テ見タルモノナシト云フ、稻田博士等ハコレニ一定ノ抗体ヲ保有スルナラント言ヘリ或ハ然ラン尙本病流行地ハ悉ク水田ニシテ乾田耕作者ニ見ズ然モ流行村ハ専ラ人糞尿ヲ以テ田畑ノ肥料トシ石灰使用ノ田地耕作者ニ於テ本病ヲ見ズ尙奇トスベキハ一家ニ二名以上ノ患者ヲ有スルモノニ於テハソノ第二ノ患者ハ看護ニ從事スルモノナラズシテ悉ク患者ニ接近セズシテ田地ニ勞作セル者ニノミ來ルコトナリ

特ニ他村ニ於ケル患者ハ皆流行村田地ニ苧入手傳ニ行キタルモノナリト云フ斯クノ如キ事實ヨリ觀レバ本病ハ水田ニソノ原因的動機ヲ求ムルヲ以テ至當トシ而モンノ病

原ガ皮膚傳染ヲ主トスルモノナルヲモ認メ得ルナリ
 本病ノ臨床的所見概畧 本病ノ潜伏期ハ大低五—七一
 一〇日ニシテ多クハ前驅症ヲ見ルコトナク突然惡感戰慄
 ヲ以テ約四〇度ノ高熱ヲ發シ頭痛倦怠不眠食欲欠損ヲ來
 シ甚ダ強激ナル筋痛ヲ伴フタメ或ル患者ノ如キハ莖ノ上
 ニ倒レタルマ、一寸モ動ク事ヲ得ズシカモ他動的ニモ動
 カスコトヲ得ズシテ臥伏セルモノアリ輕度ノモノハ僅少
 ノ腓腸筋痛及ビ壓痛ヲ伴フノミナルアリ、ソノ他煩渴ヲ
 訴ヘ口唇舌ハ乾燥被苔セリ、高熱ノタメ稀ニハ精神昏瞶
 シ譫妄ヲ發シ腸「チブス」ノ如キ症狀ヲ起シ危險ノ狀態ニ
 陥ルモノアリ、發病二—三日ニシテ特有ノ眼球結膜充血
 ヲ起シ患者及家族ハソノ血走リタル眼ヲ見テ忽チ本病タ
 ルヲ知ルニ至ルソノ甚ダシキモノニ至リテハ後ニ之レニ
 出血点ヲ混フヲモノアリ、多クハ淋巴腺特ニ扁側ノ股腺
 ノ硬固ナル腫張及壓痛ヲ認メ蛋白尿ヲ出シ尿量減少ス次
 デ急激ニ來ル全身黃疸ハ著明ニ現出シ眼球結膜充血益顯
 著トナリ黃疸色ヲ呈セル眼球結膜ハ美シク紫赤色ニ充血
 努張セル血管ノ輻輳ニヨリテ特有ノ眼光ト顔貌ヲ呈スル
 ニ至ル同時ニ出血傾向ヲ起シ皮膚特ニ側胸側腹及上膊大

腿内側ニ於テ出血斑点ヲ見、内臟出血トシテハ多ク腸出
 血ヲ見ル患者ノ多クハ黑色便ヲ訴ヘ鼻出血、咯血、吐血
 等ヲ訴フルモノ少數ナリコノ時期ハ最モ生命上危險ナル
 時ナリト云フ本病ニ於テハ肝臟ノ抵抗ヲ觸診シ得ルモ脾
 臟ノ腫大ヲ見ルコト甚ダ少數ナリ某醫ハ漸ク一%ニ於テ
 ノミ脾臟ノ腫大ヲ觸レ得タリト云フ而シテ心力ハ大抵犯
 サルルコト少ク脈膊ハ百以上ニ頻數トナルコト多シ然レ
 ドモ亦心臓衰弱ノタメ死ノ轉歸ヲトルモノアリ熱度ハ三
 四日後漸次下降シ二週餘ニ達セバ諸症狀全ク輕快シ唯黃
 疸ハ久シク治癒後ニコルコト多ク合併症トシテ耳下腺
 ノ腫大ヲ來スコトアルモ化膿ニ陥レルモノヲ見ズト云フ
 再熱ヲ起スコトアルモ三八度位ニシテ諸症狀從ツテ輕度
 ナルヲ常トシ下熱亦速カナリ
 治癒ニ赴クハ約三週位ニシテ貧血ト倦怠羸瘦ヲノコシ勞
 働ニ從事スルニハ一ヶ月以上ヲ要スルモノ多クシテ本病
 經過中最モ危險ナルハ七一—一〇日頃ナリト云フ
 本病ノ病原的検査狀況概略 余等ト共ニ出張セラレタ
 ル上野氏ガ持參セラレシ「モルモツト」二匹ニツキ發病第
 三日ノ本病患者ノ血液ヲ採取シ一ツニハ二〇〇〇一ツニ

ハ一〇〇ヲ注射歸校シタルモノノ後動物ハ何等ノ症狀ヲ顯ハサズ一週餘後ニ三八・九度ノ体温上騰ヲ來シタルヲ以テソノ後數回「反覆」スビロヘータ」ノ檢出ニツトメシガ陰性ニシテ其後二匹共下熱シテ死亡シタルガソノ病解的變化モ本病ノ特有ノ所見ニ對シ陰性ナリト云フ

尙同日三十五聯隊ヨリ出張セラレタル某軍醫ハ發病後三週餘ノ患者ノ尿ニツキ病原的檢査等ヲナシタルモ陰性ナリシト云フ

然ルニソノ後富山赤十字病院ニ於テ四匹ノ「モルモット」ニ就キ動物試驗ノ結果二匹ハ陰性ナリシモ二匹ハ陽性ノ成績ヲ呈シ「スビロヘータ」モ檢出シ得タリト聞キタリソノ後同病院ヨリ得タル血液標本ニ依ツテ余等ハ兒玉先生ヨリ本病原タル日本黃疸出血性「スビロヘータ」ノ教示ヲ得タリ

本病ニ對スル豫防及治療ノ概況 本病流行地ニ於テハ本病流行以來村民ノ衛生思想ノ普及ニ務メ本病豫防トシテハ排泄物特ニ患家ノ糞尿ハ嚴重ニ石灰ヲ以テ消毒セシメツツアルノ外豫防法ナク主治醫ハ多クハ本病ニ對シ對症ノ療法ヲトルニ過ギズ專ラ自然治療ヲマツノミ。而

シテ未ダ「サルワルサン」ノ治驗ヲ聞カズ況ンヤ免疫血清療法ノ如キハ勿論使用ノ機ニ達セザルナリ。

(大正四年十二月二日)

通信

●長廻善吉氏通信 (林教授宛)

全君大正は三年卒業後小兒科醫局醫員として林教授の指導を受け研究中なりしが昨年十月下旬辭職の上郷里出雲國にて開業中なり

(前略) 歸郷後は御禮並に其後の御通信早速可致答に有之候處意外の混雜の爲め今日に至り候段甚だ面目もなき次第に御座候小生事十月十二日歸村仕候處全村民の盛大なる歓迎を受け毎日家主並に家婦の交代訪問を受け候傍ら一日に約二十名乃至三十五名宛の招客を拙宅に於て仕り十月二十三名迄持續致し其後は郡醫師會長を始め近村醫師二十名、郡衛生課吏員等を招し挨拶仕り之れを終りて各戸訪問を致し候嘗て開業披露をなす際に通知せよこの御言葉被下候へしも前途の諸會合は凡て小生の豫想と相違仕り全部當地方の習慣に基き施行致し且つ毎日少々宛の招客を數日持續致候事も極めて煩多に候へども各部落或は小組合毎に致し候爲めに有之候小生の手荷物にもさより購入の器具等も其後に於て漸く開封致し候有様に有之尙十月末頃には既に診療を乏ふ者來たり之れを説きて拒絕致候も診察のみなりともさ強いて求むるものも有之實に今日未だ心神落ち付かず甚だ疲勞致し居り心底に任せぬ失禮仕候今日未だ大工を雇ひ諸所加工致し居候傍り藥品の整理等に逐はれ居り申候去る三日は恰も昨年小生の卒業致候當日に有之診